

「馬場小室山遺跡フォーラム」第67回ワークショップ

【原動力！パブリック・アーケオロジ-2015】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジ-からみえてきた現代社会との「かかわり」と未来への新たな挑戦

1. 【「コムナーレ考古学」事始め(8/2(日))】： 緑区公民館考古学から県都「コムナーレ考古学」へ

- ・NPO 法人野外調査研究所との共催でコムナーレ9Fの展示コーナーにて「**荒川流域の地形と古代遺跡**」と題し、広く埼玉県民に県史跡・馬場小室山遺跡を紹介する活動(ジオラマとパネル展示等)を行います。
- ・これまでは現荒川の支流である芝川流域の「見沼文化」の研究を進めてきましたが、「コムナーレ考古学」では奥秩父から彩湖までの荒川流域を研究することになり、今回は縄文海進について話題を提供しますが、高原勇夫さんが撮影しました彩湖のカキ礁(自然海層)が恐らくは一番の目玉となります。縄文時代中期の中里貝塚よりも上流に位置しておりますので、恐らくは早前期のカキ礁ではないかと思えます。
- ・展示ポスターは、秩父と見沼の合同シンポジウムに関するルポや「第 51 号土壌」出土土器群の写真は蔵由美さんをお願いし、五十嵐聡江さんの「みぬまっふ」などを中心に、2004 年の発掘風景なども構成することができました。A3で100枚以上作成しましたので、お楽しみください。
- ・会期は7/30-8/4ですが、8/1・2のみ馬場小室山遺跡のジオラマを展示し、井山紘文さんの解説もありますので、夏休みの子供たちにも見に来て欲しいと思います。「さいたま朝日」の情報BOXで広報しました。
- ・現在、「コムナーレ考古学」として「**縄文人は何を考えたか？**」を継続しようと考え、第3回テーマを「**石の文化**」としく検討しています。そのため荒川流域では、馬場小室山遺跡や氷川神社遺跡と同じ「**縄文塚**」形成が特徴的な「**土塚むら**」の、**荒川流域の典型的な晩期集落**であるさいたま市**奈良瀬戸遺跡**に学ぶ予定です。「第 51 号土壌」の**馬場小室山モデル**とは異なる、「安行 3d 式」の**奈良瀬戸モデル**構築に当っては、蛇紋岩製「**玉斧**」のように地域社会を超えて供給される物流が顕著に見られる製品と製作遺跡について考えたく、8/8(土)にさいたま市立博物館で奈良瀬戸遺跡の資料調査を開始します。
- ・高原勇夫さんはカキ礁に留まらず、専門の**珪藻分析**からも**荒川流域に縄文海進**がみられることを示し、考古学からはそれを受けて**荒川流域における最古の貝塚**を紹介しました。それが 7/18(土)に埼玉県埋蔵文化財事業団が現説(写真抜粋)を行った**上尾市稻荷台遺跡(平方西貝塚)の野島式**のヤマトシジミ貝層です。**谷部には晩期終末の土器捨て場**が包含層として検出され、そこからは現説資料下図右の、**腹面が「氷I式」系譜、背面が「南奥大洞A2 式」系譜**で、しかも本土偶に特徴的な脚部はやがて弥生式の**台式土偶**へと移行する**雰囲気**を漂わせ、大宮台地ならではの**異系統「クロス土偶」**の出土に目が釘付けでした。



2. 【「山田湾まるごとスクール」(8/21(金)-23(日))】： 「防災・減災考古学」は復興の原動力！

- ・今回は齋藤瑞穂さんの実習業務と重なりましたので五十嵐聡江さんリーダーのもと、NPO 法人野外調査研究所、馬場小室山遺跡に学ぶ市民フォーラム、新潟大学による「山田湾まるごとスクール」事務局が実施します。初めて参加される方のためにも山田町の現状については常に学びを進め、特に船越半島基部低地帯の現況について実見し、被災地の理解を深めます。
- ・学術ボランティアとしての「防災・減災考古学」への取り組みは、山田湾に生活することのリスクマネジメントとして**人類史的な教訓**を導き出し、復興に向けて**減災意識の強化に寄与**できれば、と考えています。
- ・山田史談会との交流では「山田湾文化」の意義について単なる見聞に留めることなく、『山田町史 上巻』に寄与した**川端弘行コレクション**について学び、その活用について検討します。

3. その他、**ワイン・アーケオロジ-**による**情報交換会**など： 日程の確保もお願いします。

- ・**8/8(土) (AM)** 井出政男個展「遙かな縄文土器」→(PM)さいたま市立博物館／奈良瀬戸遺跡資料 JR宮原駅改札口に10時集合し、タクシーで移動します。

以上